

二〇二〇年度

トキワ松学園高等学校入学試験

国語第一回

問題用紙

受験番号

開始と同時に受験番号を
書き入れなさい。

次の①～⑤の——線のカタカナを漢字に直し、⑥～⑩の——線の漢字は読みをひらがなで答えなさい。

- ① 英語の原書をホンヤクする。
- ② ホウフな人生経験を積んでいる。
- ③ 雑誌にヒヒヨウが載った。
- ④ 新しい技術をドウニユウする。
- ⑤ イチジルしい進歩を示す。
- ⑥ 趣のある造りの庭だ。
- ⑦ 本の装丁をデザイナーに依頼する。
- ⑧ 入学式は滞りなく進んだ。
- ⑨ 通学路で車が徐行する。
- ⑩ 討論会で卓越した意見が出た。

次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。(問いの下の数字は、本文での行数を示します。)

初めて物語に出会ったのはいつだったろうと考えると、

A

父の声が聞こえてくる。

「どんぶらこっこう すっこっこう どんぶらこっこう すっこっこう」

桃太郎さんの大きな桃は、歌うようなこの声といっしょに川のむこうから流れてきた。父が自分流に語ってくれたのか、

それとも家に数冊あった「講談社の絵本」(一九三六年創刊)を読んでもらったのかはつきりしない。でも思い出すと、

① 映画で見たわけでもないのになぜか絵はいつも動いている。

B

あの、歌のように節をつけた読み方のせいだ。

またそのとき父のあぐらのなかにすっぽりと入って、いっしょに揺れていた私のからだのせいだ。桃太郎さんの桃はいつ

も、絶対に、この音で流れてきて欲しいと、私は今でも意固地に思っている。この言葉のひびきは、私にとって特別で、

今でも口ずさむとからだ揺れてくる。そして何かよいことが起きそうな気がしてくる。仕事をしていてびつたりの言葉

がみつからないときも、私はこの「どんぶらこっこう」をまるでおまじないのようにつぶやいたりしている。するとか

らだの奥の方から探していた言葉がゆっくりと昇ってくる。小さいとき刷り込まれた言葉の感覚というのはどうしようも

ない。『舌切り雀』の「すずめのおやどは どこかいなあ」や、「はなさかじいさん」の「ここほれ ワンワン」という言

葉も思い出せば、昨日聞いたように耳から離れない。

父は勉強のことには、あまりうるさいことはいわなかった。学校がきらいで、ろくな成績もとれなかった私がおそろお
 そる通信簿をみせると、「ほう、たいしたもんだ。優が一つあればたいしたもんだ」といった。たった一つしかないのを

気にしていた私はその一言にすくわれた。^③でも父の方はこの「桃太郎さん」をはじめ、たくさんのお父さんのおはなしの持ちネタはそんなにたくさんはなかったから、何回も繰り返される。こんな話があった。「ある人が、『女将さんおいでかい』と八百屋さんに行くと、旦那が『いま、ちよつと用足し』といった。するとご不浄の方から、女将さんのおしつこの音がきこえてきた。『ごぼ じゃが ごぼ じゃが しゃしゃしゃー』。それで今度は呉服屋の女将さんに会いに行くと、こつちの女将さんもご不浄に入つてね、またおしつこの音が聞こえてきた。『ちんちりめん ちんちりめん』ってね」

父の数少ない教育的言葉は「きちょうめん」と「お上品に」だったから、これは C お品がなさすぎる。でも私も姉も、こんな話が大好きだった。

またハリウッドの無声映画時代の映画の話もあった。^{注3}『男一匹の意地』。この映画のことは、五十ちかくなるまで、すっかり忘れていた。あるとき、D 変な音の名前が頭をよぎった。「陳陳楼」というような…… E 中華

料理屋さんみたいな名前だった。「こんな名前がでてくる話を小さいときしてくれたことない？」とまだ元気だった父に聞くと、「それは早川雪洲が主演のハリウッドの映画だよ。無声映画だね。おとうさんもちゃんとした名前は忘れたが、その中華料理屋みたいな名前の人はね、悪者で最後は殺される。ニューヨークの中華街に奴隷市場が立って、かわいい中国の女の子が売られようとしている。それを助けるのが早川雪洲でね……」というような話だったらしい。

そして続けていった。「おまえ、『散り行く花』っていう映画知ってるかい？ そこにすわってビデオを見てごらん。やっとなにに手にいれたんだ。小さいときこれも話してやったと思うよ」

また中国がでてくる話で、貧しい、貧しい女の子がかなわぬ恋のはてに、悲しく死んでいく話だった。「きれいだろう、

31

30

29

28

27

26

25

24

23

22

21

20

19

18

17

16

15

この女優さん、リリアン・ギツシュっていうんだ。父は懐かしそうに目を細めた。リリアン・ギツシュといったら有名
32 だけど、私の知っているのは、おばあちゃん女優だった。でもこの映画のときは二十二歳、役の年は十六歳。古ぼけたビ
33 デオで見ても、若いリリアン・ギツシュはそれは美しかった。^④

34 そう話してくれる父の顔を見ながら、若い父が浅草で映画を見ている、とびつきり楽しかったであろう一日を想像した。
35 おとうさんにも心がとろけそうになった日があったのだ。だから小さい娘たちに話したくって仕方がなかったのだ。五歳
36 や六歳の子にわかるかどうかより、自分の大切な思い出を語ってくれたのだと思う。
37

38 そのほか、『宮本武蔵』^{みやもとむさし}や、必ず黒岩涙香の、という前置きをつける『ジャン・バルジャン』など、繰り返し、繰り返し
39 し話してくれた。いずれも父がだいすきな物語だった。父もジャン・バルジャンや武蔵のように貧しい生まれだった。で
40 も一生、学問をしたかったといいつづけていたから、物語に自分を重ねていたのだろう。

41 二つとも長い話だから、一回では終わらない。当然続きの話になる。「また明日ね」となるのだ。でも用事ができて出
42 かけたり、お客さまが来てお酒を飲んでしまったりで、その明日はちゃんと明日になるとは限らない。ふすまの陰でお客
43 さまが早く帰らないかと、いらいらしながら、よく待ったものだった。

44 姉がお客さまに早く帰ってもらうには、廊下のすみにほうきをさかさまに立てるといいと、どこからか聞いてきた。そ
45 れでお願いをこめて立てかけたことがあった。あとあと私はほうきに乗る女の子の物語を書くことになる。調べてみたら、
46 魔女のほうきと、私の家の廊下のほうきは同じ意味を持っていることがわかった。それは災いをはらうという力。魔女の
47 いたところと、東京とではずーんと離れているのに、でもなんだかうれしい。^⑥

48 このたびたびの父の約束破りは、私たちに続きの話を想像する時間をくれた。がっかりしながらも、ジャン・バルジャ

ンの運命やいかに……私だったらこうするのにって、ジャン・バルジャンにおしえてあげたいと、どきどきしながら考えた。子どものことだから、たいていは幸せな終わりを考えるのだけど、父の続きの話はいつもかわいそうな運命になって、また続きを残して終わる。この終わり方はとても上手じょうずだったように思う。だからそのあとの展開を想像せずにはいられないのだ。私は自分が想像する物語と、父が語る物語を行ったり来たりして、どっちがどっちなのかわからないほどごちゃごちゃにしながら、物語を楽しんだ。

⑦ こう書いてくると、とつても立派りっぱな父親のようだけど、おぼえているのはいつも眠そうな声だったり、（あ）お経きやうのようだったり、聞き取れないことが多かった。途中で消えたと思つたら、いびきが変わつていたなんてこともしよつちゆうだった。また元気のいいときは、落語らくごや歌舞伎かぶきのセリフが（い）入った。まったく気の向くままで、いつも口癖くちぐせのように子どもたちについていた「X」なんていう言葉は、そのままお返ししたいようだった。

この「きちょうめん」という言葉を、父は折り紙を折ってくれるときにも使った。一つ折つては、「きちょうめん」、つぎまた折つては「きちょうめん」。こういつづけながら折り紙を折っていく。私は折り紙は、こういうながら折るものだと思つていた。私の娘も小さいとき、おじいちゃんに教わつて、この言葉をつぶやきながら折つていた。

⑧ 父は変な言葉を作るのも得意な人だった。たとえば、『しんぶんかんぶん ねこのくそ』なんていう言葉が家にはある。チンプンカンペンというのを、新聞かんぶんにかえて、またまたお品のないことに、猫のくそがつくのだ。これは「門まで行つて、おとうさんに新聞をとつてきておくれ」という合あい言葉だった。

「チコタン チコタン プイプイ チコタン」という言葉があった。子どもの鼻のあたりを（う）突つついたりして歌うようにいうと、何事もなかったようにむこうへ行つてしまう。なんの意味もないのだけど、これも父の口癖くちぐせだつ

65

64

63

62

61

60

59

58

57

56

55

54

53

52

51

50

49

た。父はその後再婚さいこんをして、三人子どもが増えて、兄弟は六人になった。いまだに全員がこの言葉をなつかしがっている。みんなが集まるようなことがあると、きまってこの言葉がでてくる。「おとうさん、よくこんなことをいったわよねえ」⁹すると、建て替えられて、もうなくなってしまったのに、育った家の縁側えんがわの風景が見えてきて、そこで遊んだ子どものときにワープできる。

父との楽しい日々は、私が一年生になり、戦争が始まり、父が召集しょうしゅうされると、いつのまにかおわりになる。

自分で本が読めるようになった頃から、戦争による物資不足が始まり、しだいに新しい本がなくなっていく。でもその頃は、本¹⁰という誰かのものなのに、誰のものでもなくて、いつも子どもたちのまわりをあちこちわたりあるいていた。そんななかで私はアンデルセンやグリムなどを読んだように思う。甘いもののない時代だったから、なかでも「ヘンゼルとグレーテル」のお菓子かしの家は魅力的みりよくてきだった。この壁はチョコレート、屋根はウエハースと、絵にまでかいて楽しんだ。二年生の頃だったか、私は『小公女』を読んだ。小さいときから運命が変わることに異常に興味があつて、このセイラという少女に自分を重ねて、どきどきしたり、泣いたりしながら夢中で読んだ。いざ手にとってみると、その頃の私は読んだことがないくらい厚い本だった。漢字も多い。読み通せないかもしれないと思いつつ読みはじめたらとまらなくなった。頭に血が昇つて、がんがんするし、ほっぺたはじんじんと熱くなった。セイラにはなんとか早くしあわせになつてもらいたいのに、お話はいつまでも続いて欲しかった。柱によりかかり、おしりを廊下にぺたんとつけて身じろぎもせず読んでいた。読み終わったあとのおしりの痛かったこと！ あんな力の入った読書はその後やってこない。

注1 (4) 講談社……………出版社の名前

注2 (17) ご不浄……………トイレ

注3 (23) 無声映画……………音声・音響、特に俳優の語るセリフが入っていない映画

注4 (26) 早川雪州……………ハリウッド、ヨーロッパなどで活躍した日本の俳優

注5 (32) リリアン・ギッシュ……………無声映画時代の悲劇映画で活躍したアメリカの女優

注6 (38) 黒岩涙香……………日本の小説家、思想家、作家、ジャーナリスト

問一 ~~~~~ 線1〜5の言葉の本文中での意味として最も適当なものを、それぞれ次のア〜エの中から一つ選んで記号で

答えなさい。(7、9、21、31、32)



2 おまじない (9)

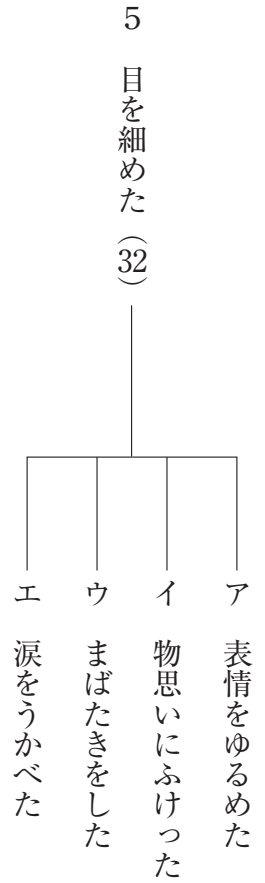
- ア 同じ言葉をくり返して落ち着きを取りもどすこと
- イ 誰にも聞こえない小さな声で思いをつぶやくこと
- ウ 自分だけにわかる言葉を勝手につくっておくこと
- エ 目に見えない力をかりて願いごとをかなえること

3 きちようめん (21)

- ア 人の言うことを一言も聞き逃さないこと
- イ なにごとも一生懸命にとりくむこと
- ウ 物事をすみずみまできちんとすること
- エ どんな約束でも必ず守ろうとすること

4 かなわぬ (31)

- ア 望みが実現しないこと
- イ 絶対に許されないこと
- ウ なくてはならないこと
- エ がまんができないこと



問二 空欄

A

E

に入れるのに最も適当な語句を、次のア～カの中からそれぞれ一つ選んで記号で答えなさい。(同じ記号は一度しか使えません)。(1、5、21、24、24)

ア しっかりと イ ふっと ウ まず エ なんだか オ ちよつと カ きつと

問三 —— 線①「映画で見たわけでもないのになぜか絵はいつも動いている」とありますが、それはどのような「絵」

ですか。本文中の言葉を使って説明しなさい。(5)

問四 —— 線②「するとからだの奥の方から探していた言葉がゆっくりと昇ってくる」とありますが、これは具体的に

は、どういうことですか。本文中の言葉を使って説明しなさい。(9・10)

問五 —— 線③ 「でも父の方はこの『桃太郎さん』をはじめ、たくさんの優を私に残してくれた」とありますが、「父」が「私」に残してくれた「優」とはどのようなものですか、十字以内で答えなさい。(15)

問六 —— 線④ 「それは」と意味の同じものを次のア～エの中から一つ選んで、記号で答えなさい。(34)

ア それはよかった。おめでとう。

イ それは見事なできばえでした。

ウ それは私のカバンです。

エ それは十年前のことです。

問七 —— 線⑤ 「その明日はちゃんと明日になるとは限らない」とありますが、それはどういう意味ですか、次のア～

エの中から一つ選んで、記号で答えなさい。(42)

ア 明日は今日の話とは全く違う話をする人があったということ。

イ 明日は自分の考えていた話の続きとは違う話になることもあるということ。

ウ 明日するといった話を本当に明日するとは限らないということ。

エ 明日するといった話を忘れてしまうことがあったということ。

問八 —— 線⑥「それは災いをはらうという力」とありますが、「私の家の廊下のほうき」がはらう「災い」とはどういうことですか。説明しなさい。(46)

問九 —— 線⑦「こう書いてくると、とっても立派な父親のようだけど」とありますが、「私」から見た父はどのような人であったと思われますか、説明しなさい。(54)

問十 空欄

X

 に入る語句を本文中から抜き出して答えなさい。(57)

問十一 —— 線⑧「父は変な言葉を作るのも得意な人だった」とありますが、「変な言葉」とはどのようなものですか。本文中の言葉を使って二十字以内で答えなさい。(61)

問十二 空欄 (あ) () () () に入る適当な語句を次のア～オの中からそれぞれ選んで、記号で答えなさい。(同じ記号は一度しか使えません。)(54、56、64)

- ア ちゃんと イ ふらふらと ウ ふにゃふにゃやらと エ ばんばんと オ とろりとろりと

問十三 —— 線⑨「すると、建て替えられて、もうなくなってしまったのに、育った家の縁側の風景が見えてきて、そこで遊んだ子どものときにワープできる」とありますが、それはどのような風景ですか。具体的に答えなさい。(68・69)

問十四 —— 線⑩「本というとな誰かのものなのに、誰のものでもなくて、いつも子どもたちのまわりをあちこちわたりあるいていた」とありますが、それはどういうことですか、時代背景を踏まえて説明しなさい。(72)

問十五 次のア～オの中から本文の内容に合致するものを一つ選び、記号で答えなさい。

- ア お父さんはいろいろな物語をすべて自分流に変えて話してくれた。
- イ お父さんは娘たちに自分の若いころの思い出だけを話してくれた。
- ウ お父さんは話をするといつも寝てしまうので私はいらいらしていた。
- エ お父さんの話は不幸な終わりになるので私は自分なりの話を考えた。
- オ お父さんの口癖は今も私や兄弟たちの記憶に残り続けている。

